

1501

<p>第七師團 司令部 十三軍副報發第二六〇號 昭和拾七年七月貳日</p>	<p>二六師團第五七號 軍紀違反者ニ関スル特別報告 陸軍大臣 東條英機殿 第七年拾月廿八日 第一百十六師團長武内俊二郎</p>	<p>首題ノ件別紙ノ通報ス</p>	<p>支那派経 連軍總 司令部由 昭和拾七年七月九日 總副報第二五四號</p>	<p>17.11.20 受封</p>	<p>17.11.17 防衛課</p>	<p>17.11.6 前</p>	<p>17.11.18 第276号 課長</p>	<p>17.11.19 379</p>
---	---	-------------------	---	------------------------	-------------------------	----------------------	----------------------------------	-------------------------

(納谷典・京東)

逃亡兵ニ関スル件

一、事件發生年月日及場所

日時 昭和十七年八月二十三日

場所 中華民國安徽省懷寧縣安慶

二、逃亡者ニ関スル概要

人所屬部隊

歩兵第三百三十八聯隊第三中隊

現役兵陸軍上等兵

(大正 日生)

2. 本籍

奈良縣

3. 應召年月日

昭和十三年十二月十七日現役兵トシテ歩兵第七十八

聯隊補充隊ニ入隊

昭和十六年一月一日補充員トシテ現所屬部隊ニ編入

三 逃亡事實ノ概要

一 逃亡者陸軍上等兵

ハ昭和十七年七月十一

日ヨリ大隊本部苦力監視兵トシテ服務シ八月五日勤務交代シタルモ當時「マラリア」發病ノ為其ノ儘大隊醫務室ニ入室ス「マラリア」ハ數日ニシテ治癒セルモ齒痛ニ依リ引續キ受診中手術ヲ要スルニ至レルヲ以テ在安慶野戰病院ニ出頭受診スルコトヲ許可セラレ當時同様齒科治療ヲ要シタル同中隊陸軍伍長阪口正一引卒ノ下ニ八月二十日安慶ニ出張ス
出張前當時大隊本部位置ニ於テ集合教育中ナリシ新補充員ニ接近シ殊更ニ親切ナル態度ヲ粧ヒテ其ノ

- 信用獲得ニ勉メ日用品ノ購入並ニ邦貨ヲ軍票ヘノ交換ノ為川島ニ等兵ヨリ金九十圓ヲ又向田ニ等兵ヨリ二十圓ヲ預リ携持シヤリタリ
3. 八月二十日夕安慶ニ到着シ途中丸甲商會(邦人店)ニ於テ邦貨五十圓ヲ軍票ニ交換ノ後第四野病院ニ赴ク
4. 二十二日治癒シタルヲ以テ一三〇ヨリ散歩ヲ許可セラレ市以丸甲商會ニ赴キ邦貨十圓ヲ軍票ト交換シ更ニ邦人書店朝陽堂ニ至リ三十圓ヲ軍票ニ交換一六三口飯院ス(此ノ間依頼ヲ受ケタル日用品ヲ購入セシ形跡ナシ)
5. 翌二十三日退院シ定期船(〇八三〇出帆)ニヨリ飯隊スヘキ旨申告ノ後〇五〇〇病院ヲ出發ス
6. 同行セシ阪口伍長ハ治療ノ為留院シ八月二十八日治癒

退院敵隊スルニ及ヒ初メテ
判明セリ
上等兵敵隊セサル事件

四處 置

1. 大隊長ハ直ニ電話ヲ以テ憲兵隊ニ搜索依頼ヲナスト共
ニ中隊ニ通報シ特ニ池州大通方面ヲ極力搜索セシムヘシ
處置ス、中隊ハ之ニ基キ極力搜索ヲ實施スルト共ニ
關係部隊ニ連絡シ銳意發見ニ勉メタルモ九月中旬ニ到
ルモ消息不明ナリキ

2. 九月十二日ニ至リ在荊門第三十九師團參謀長ヨリ當
師團參謀長宛電報ニヨリ逃亡者
上等兵ハ應城憲
兵分隊沙洋鎮分遣隊ニ逮捕セラレ保護中ナル旨ノ通
牒ニ接シタルヲ以テ身柄ヲ受領シ十月五日安慶憲兵
隊ニ送致ス

3. 調査ノ結果犯罪事實明瞭トナリタルヲ以テ所屬隊

五、原因動機
 長八身柄ト共ニ安慶憲兵分隊ニ捜査處分ヲ依歸ス

安慶約ニ惠マレス且性質陰險卑屈ニシテ少年期ヨリ
 家出シ浮浪性アリシ者ナルカ今次補充員到着ニヨリ
 交代飯還者トシテ凶地轉属ノ豫定タリシモ本人ハ其
 ノ身上ニ省ミテ寧ロ凶地飯還ヲ望マス支那ニ留マリ度キ
 希望ヲ有シアリテ偶々補充員ヨリ多額ノ金錢ヲ入手セル
 ヲ奇貨トシ逃亡離隊スルニ至ル

六、責任者ノ處分

本件ニ関シテハ關係諸官ヲ訓戒シ將來ヲ戒ムルニ留メ處
 罰セス

七、其他犯行者ニ関スル參考事項

八、家庭

本人ハ庶子ニシテ實父ハ本人四才異母ハ二才ノ時死亡シ

現在異母兄 (明治六年生) 嫂 (明治十一年生) /
 三人家族ニシテ農ヲ營ミ生計程度下位又軍事扶助料
 (月四六円五ロキ)ヲ受ク
 本人ハ入營前マテ殆ント浮浪シ定職ナク日傭稼ナト爲シ
 アリタリ

2. 性格素行

性陰險卑屈ニシテ少年期ヨリ家出シ盜癖アリ入營
 直前ハ大阪市立今宮保護所ニ收容セラレアリタリ
 入營後ハ慰安所等ノ出入多ク勤務ハ消極的ニシテ
 勤事確實ナラス

3. 賞罰

昭和十二年十月窃盜業務上横領罪ニ依リ懲役八ヶ
 月ニ處セラレ

4. 沙洋鎮(漢口西方約百八十料)附近ニ逃亡セシ理由

本人所屬、歩百三八隊第一大隊ハ昭和十六年五月ヨリ
 昭和十七年四月ニ至ル間第三十九師團ニ配屬セラレ同
 人ハ沙洋嶺ニ於テ警備勤務ニ服セシカ其ノ間治安維
 持會役員及支那商人等ニ接近懇意トナレリ
 逃セニ方リ本人ハ同地ニ行キ其ノ緣故ヲ逃レハ生活
 ハ尙トカナルモノトノ淺慮ノ下ニ定期船又ハ民船ヲ利
 用シテ赴キタルモノニシテ敵地ニ逃亡スル等ノ意ハ有
 シアラスアリキ

1509

人事極秘

七〇師副發第一二二號

特別報告(自殺未遂)件報告

昭和十七年十月二十八日 第七十師團長 内田孝行

陸軍大臣 東條英機殿

左記ノ者ニ係ル首題ノ件別紙ノ通報告ス

左記

獨立歩兵第百二十五大隊第一中隊陸軍一等兵

十三號副發第二五九號

司令部

昭和十七年十月二十八日

昭和十七年十月二十八日
司令部 總副報第二五五號

(日本標準規格B-5)

軍人、自殺未遂報告

官等級 氏名(姓)	昭和十六年徵集 陸軍一專兵 [Redacted]
所屬部隊	獨立歩兵第百二十四大隊第一中隊
月日時	昭和十七年十月二十一日 二時五分
場所	中華民國內政部浙江省杭州市嚴官巷崇陽山兵舎
手段	一時不寢番交代直後兵舎裏ニ於テ本人ニ支給シタル三八式歩兵銃ニ同 彈藥一發ヲ裝填シ銃口ヲ前額部ニ當テ右足親指ヲ以テ引鐵ヲ引キ發射 前額部ヨリ後頭部ニ貫通ス
原 因	<p>平素又ハ死前後於ケル参考事項</p> <p>一十月十日頃ヨリ輕度憂鬱症ニ罹リタル如ク戰友ト談話ヲ行ハス常ニ沈滞 状態ニアリシ故注意シタル處十月十日ヨリ其ノ傾向遂次亢進状態ニナリタル 同日本人ノ身上及身體調査ヲ實施セルニ鼻及前額部ノ疼痛並頭痛不明 瞭ヲ訴フ依テ明十五日直ニ受診セシムル如ク處置ヲ爲シタルモ中島部隊軍 醫發病ノタメ延期十八日第七十師團野戰病院ニ連絡受診セシムル處 膿症(就業)ト判定セラル而シテ本人ノ病状ニ鑑ミ症狀輕快ナル迄諸勤務 ヲ免シ保護兵トシテ之ヲ教育ヲ實施中質問等ニ對スル應答ハ平常ト 何事変ラサルモ注意カ放散ナルタメ不日部隊本部連絡ニ際シ隊附(連長)ノ 診斷ヲ受ケレバ要スレバ入院セシムル如ク本人ニモ申渡シタル處之ヲ踏シアリ 尚ニ一日(自殺行爲前日)ハ自ラ心氣輕快ナルタメ勤務免除自責ノ念ヨリ 不寢番立哨ヲ申出タル爲立哨セシム</p> <p>二二十日十四時軍醫診斷ノ結果殆んど生起ノ見込ナシ</p> <p>三憂鬱症ニ起因スル強度憂鬱症亢進ヨリ發作的行爲ト推定ス</p>
既遂未遂別	故意
處 置	自殺未遂
其他必要ナル事項	<p>一直接第七十師團野戰病院ニ連絡軍醫吉松少尉來診ヲ求メ受診セシム ニ各幹部ニ對シテ注意者ニ對シテ指導監督ヲ層層ナシムル如ク訓戒セリ</p> <p>二家庭的ニ於ケル精神上苦痛等認メル事項ナシ</p> <p>三遺書ナシ(手簿等調査セルモ厭戦其他ノ記事ナシ)</p> <p>四入營前飲酒口論ノ上伯父ヲ兇暴ヲ以テ傷害セシコトアリ</p> <p>五職業 炭坑墟進夫(家庭ハ農業ナルモ本人ハ家業ニ從事シアラス)</p> <p>六古年次兵及其他ヨリ私的制裁ヲ受ケタル事實ナシ</p> <p>七入營後ニ於ケル勤務状態動作續慢ナレトモ頭腦中位以上ナリ</p>